

# ふれあい

大代地区コミュニティ推進協議会

事務局：大代地区公民館 ☎ 364-8442

あいさつは心のふれあい 出会った人と あいさつしましょう

## 皐月の大代

大代南 渡邊 巖

### ♪夏も近づくと八十八夜：

よりも立春から数えて百五日に当たる百五の頃になると当地方でも殆ど霜が降りなくなり、種蒔きの適期して本格的な農繁期が始まります。

### 節供

五日。今は『ごどもの日』ですが、昔は『端午の節句』と云って男児の節供でした。

四日の夕方、軒に蛇が入らぬように屋根に菖蒲と蓬を挿します。夜は菖蒲湯に入ります。また頭痛みをしていないようにと、男子は菖蒲で鉢巻きをし、女子は簪を作つて髪に挿します。

四日の夜は精進料理にし、五日は餅を食べて休みとします。

『節供働き云々』は此の日にも云われ、「節供馬鋤を下ろすと七里四方の稲を枯らす」|| 「節供馬鋤」と云つて「代掻き」をする事を最も忌み嫌い、この事を知らずに馬鋤下ろした為に『送り者』として村八分で村外へ追放された例があつたそうです。

何れ日此の日は、田植えを目前にして田植えと云う神聖な作業を、無事完了させるための慎みの行事だったのでしよう。

### 植え始め

農作業と共に季節も進んでウツギ

(卯の花||田植花)が咲き始めると愈々田植えです。「植え始め」には苗代から苗取りをして三把の苗を洗い、「植え始め苗」といつて盆に載せ、三個の握り飯と共に神棚へ供え、此の苗から植え始めます。

農繁期中は各農家とも『結』の相互扶助で乗り切ります。

### サナブリ

田植えの終わった日をサナブリといつて餅を搗き、手伝いの人々に酒と共に振舞い、近所にも配ります。

『サナブリ』は田植えを見守つた田の神が、田植えが終わつて天に昇ることを『サノポリ』と云つたことの訛音と考えられています。

### ♪卯の花の 匂う垣根に

時鳥 早も来鳴きて

忍び音漏らす 夏は来ぬ

この間に『立夏』『小満』と過ぎ、ツツジ、サツキ(皐月)、フジ、栗の花が咲き、季節は次第に『梅雨』に向かつて進みます。



手植え

## 就任のご挨拶

大代地区公民館長 沖井 三夫

四月の定期異動により、大代地区公民館に赴任しました沖の井と申します。前任の伊藤館長(現在 交通防災課に勤務)同様、どうぞよろしくお願い申し上げます。

異動前は、鶴ヶ谷児童館に勤務し、地域内の児童の健全育成に従事する事ができました。振り返ってみますと遊びを通じて社会性など養いながら、その子どもにも良い影響力を与えることができたのかと自問自答しているところでもあります。ただ、今伝えることは、もう一度、大人がしっかりと生きて生きなければならぬと言ふことを教えられました。

公民館に着任してから早いもので一ヶ月を経ちました。市内にはご承知のとおり中央・山王・大代と均衡のとれた公民館が配置されており、それぞれ地域にあつた事業を展開されていると思います。

特に、当館は大代五区、笠神地域など地域住民の方々と一体となつた運営を今後とも、継続していきたいと肝に銘じております。子どもからお年寄りまで、お互いに手を携えながら、公民館に集い、学び、そしてまた、地域の団体・グループ・サークル等の自主活動の拠点として大いに活用していただきたいと思います。

今後とも公民館の運営につきましまして、変わらぬ御支援・御指導をお願い申しあげ就任の挨拶とさせていただきます。

## 大代南区区長交替について

去る四月七日(木)大代南区の総会が行われました。渡辺弘氏には十年間に亘り区長職を勤め上げられ退任されました。長い間大変ご苦労様でした。今後のご自愛とご多幸をお祈りいたします。後任には、橋本浩氏が選任されました。前渡辺区長同様よろしくお願いいたします。

## 貞山運河周辺清掃の お知らせ

日時/五月十五日(日)

午前六時から(一時間程度) 集合場所/大代地区公民館

◆雨天の場合は中止(小雨決行) 大代地区の皆さんのご協力お願いします。

私たちの手で きれいな町づくり

マナーを守ろう



ご祝儀 お見舞いは 三千円を限度にし お返し物はしなないようにお互い気を配りましょう

# 私のシベリヤ (No. 三三)

大代南 後藤 清一

最後の集結地ナホトカに辿りついて一ヶ月になる。九月一日俺の誕生日も気付かぬうちに過ぎていた。此処は十月になると早くも雪である。入ソして何度目の冬か、くる年の正月も此処なのか、帰国の手掛りもないまま労役に明け暮れる。毎日心は重く沈むばかりだ、今日はコルホーズの農作業である。現地人の差入れて馬鈴薯の丸ゆでを頂く、うまかった涙がでる程嬉しかった。この時程ソ連人を人間として心のふれあいを感じた事はなかった。人間誰でも先ず喰い気だ、最悪の状態に追い込まれると、その本性を表すと云うが確かにあの人が、この人がと一目おいた者が以外と無様で醜い姿を表す。馬糞を見ても、煉瓦屑をみても「あつ黒パン」だと飛びつく。餓鬼のようになりさがり、食べたい喰いたいと四六時中食う事ばかり、そんな小さな願いも叶わず朝には冷たくなって死んでいく者、明日は我が身かと友の横顔に涙するのであった。

貧すれば鈍すか極限状態の人の心にかに浅ましき事かと寒々とした思いにかられたものであった。

寒さも辛かったが最悪の食事にはどう仕様もない。誰にも訴えようのない惨めさ、寒空に綺麗に輝く星空を見ても憎らしく、小鳥の囀りにさえ無性に

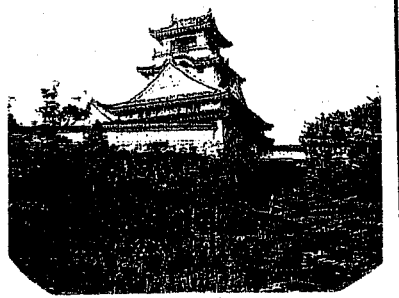
腹が立ち、自分が一層哀れに想えてくるのであった。朝霧が晴れると、収容所から見る山波は眼の覚める様な白色に覆われている。今月に入って二回目のダモイがあった。消燈の直前に集合の鐘、それダモイの発表だぞ、通訳をつれ所長が来る。聞きづらい日本語で帰還者の発表だ総数二千名位とか。大半は過ぎたのに、テルマの山奥から一緒した俺達は一人も入っていない。皆手を組んで祈っている。程なく以上だ、呼ばれた者は明朝第三収容所に移動し終わり。帰れる者残される者の明暗を又味わう。軍隊組織は解体され分団と改称され新しく民主クラブができた。我々はこれに加るのが得策かどうか真剣に考える。

民主クラブの奴等はスパイだと陰口する者・逆らうと又民主運動に協力しないとダモイはできない、そして何時までも重労働だと様々な噂が流れる。我々同士がヒソヒソと語り合う日が多くなり、お互いに腹の探りあいをする様になった。民主クラブに加入すれば早く帰れるとの噂さにひかれ、勇気を出して加入する。私にとってシベリヤとは一体なんだったのか。 続く



## 戦国の武将

大代西 藤田 遊子



『山内一豊』(やまのうちかずとよ)

目立つ戦功のなかった武士が、一城の主に出世した。その武士の名は今に誇る名城土佐高知城主山内一豊であった。ではそのエピソードとは。

ある日、信長は京都で「馬揃え」を行った。中でも一際、信長の目をひいた名馬があり、その馬の持主こそが、山内一豊であった。これを機に一豊は出世への道を歩き秀吉、家康に仕えた。さて、黄金十枚も要する名馬購入の大金は嫁に来る時千代が持って来たものであった。更に、上杉景勝討伐の陣にいた一豊に千代から「三成拳兵の密書」が届き、一豊はこれを直ちに家康に差し出し、家康は関ヶ原の合戦に大勝し、一豊に土佐二十萬石を与えた。

十五萬の兵が戦った天下分け目の戦いに勝利をもたらしたものは、「千代密書」であったとも言えよう。賢妻千代の内助の功は、戦国史上に燦然と輝いているのである。六十一歳で逝去。『城主より妻の名高き城の春』遊子

## 俳句

大代西 松浦 富雄

山宿に地酒暖め普翁の忌  
視弱者に仄に白く梅香る  
斑雪道拾って歩む紅鼻緒  
春遅々と水の瘦せたる不動滝  
啓蟄や血糖下がる老患者

笠神西 本郷 勝子

新仏花を散らして彼岸荒れ  
駒返る草に汐風渡り来る  
沼狭く孤影悄然残る鴨  
渡し舟船先は未黒の芒かな  
老骨をのばして踏青生気満つ

咲きそめし佐助屋陽ひとりじめ  
露天湯でむうすんでひらいて雪椿  
ニヶ月や静かに雲の流れ行く  
スレート三角屋根に寒の月  
夕昏や連なる島に牡丹雪

春蘭やうすきみどりの嬰兒よ  
ふきのとう淡きみどりや亡き母想う  
初咲や独立するは白木蓮  
離れ島菜の花一面香りたつ  
捻挫して接骨院やヒヤシンス